

船舶インシデント調査報告書

令和3年3月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	座洲
発生日時	令和2年8月22日 20時30分ごろ
発生場所	北海道苫小牧港第4区 開発局苫小牧港東港区中灯台から真方位312°3.6海里付近 (概位 北緯42°37.6 東経141°42.5)
インシデントの概要	プレジャーボートMegumiは、帰航中、砂浜に座洲した。
インシデント調査の経過	令和2年8月28日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート Megumi、5トン未満（長さ6.32m） 202-6042北海道、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
インシデントの経過等	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者4人を乗せ、苫小牧港第4区東港地区東防波堤付近で釣りを行った後、北海道苫小牧市勇払マリーナ（以下「本件マリーナ」という。）に向けて帰航を開始した。</p> <p>本船は、本件マリーナ沖に至った後、船長がGPSプロッター画面の過去の航跡に沿って本件マリーナに戻ろうと思い、手動操舵により微速力で北進中、砂浜に座洲した。</p> <p>船長は、負傷者がいないことを確認し、118番通報を行い、救助を要請した。</p> <p>船長は、本インシデント当時、GPSプロッター画面の過去の航跡と同画面の2m等深線が同じ色だったので、同等深線を過去の航跡と思い込み、同等深線付近を航行していたことに、本インシデント後に気付いた。</p> <p>海図W1036（苫小牧港付近）によれば、本インシデント発生場所は、2m等深線付近である。</p>
分析	本船は、帰航中、船長が、GPSプロッター画面の過去の航跡に沿って本件マリーナに戻ろうとしたところ、同画面の2m等深線を過去の航跡と思い込み、同等深線付近を航行したことから、砂浜に座洲したものと考えられる。
原因	本インシデントは、夜間、本船が、帰航中、船長が、GPSプロッター画面の2m等深線を同画面の過去の航跡と思い込み、同等深線付近を航行したため、砂浜に座洲したものと考えられる。

再発防止策	<p>本船は、本インシデント後、次の対策を採った。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、GPSプロッター画面の本船の航跡を等深線と区別し易い色に変更した。 <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、上記のほか、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ GPSプロッター等の航海計器を適切に活用して船位を確認し、余裕水深を確保した進路を航行すること。
--------------	--